



## 2025年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2025年2月14日

上場会社名 ソースネクスト株式会社  
コード番号 4344 URL <http://www.sourcenext.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 兼 COO (氏名) 小嶋 智彰  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 兼 CFO (氏名) 青山 文彦

TEL 03-5797-7165

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年3月期第3四半期の連結業績(2024年4月1日～2024年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	8,650	5.4	2,143		2,148		1,919	
2024年3月期第3四半期	8,208	5.6	1,870		1,946		1,660	

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 3,039百万円 ( %) 2024年3月期第3四半期 1,821百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	14.15	
2024年3月期第3四半期	12.25	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年3月期第3四半期	19,438	11,116	47.1	67.27
2024年3月期	16,811	8,389	48.0	59.56

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 9,157百万円 2024年3月期 8,073百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期		0.00		0.00	
2025年3月期		0.00			
2025年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

2025年3月期の連結業績予想につきましては、現時点で精度の高い業績予想算定が困難なことから、引き続き非開示とさせていただきます。

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期3Q	136,938,300 株	2024年3月期	136,358,300 株
期末自己株式数	2025年3月期3Q	800,112 株	2024年3月期	800,024 株
期中平均株式数 (四半期累計)	2025年3月期3Q	135,667,024 株	2024年3月期3Q	135,552,518 株

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	9
(セグメント情報等の注記) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、インバウンド需要の増加や、雇用・実質賃金の改善が進むなど、景気は緩やかな回復基調となりました。一方で、原材料・エネルギー価格の高騰、中国経済の先行き懸念、中東情勢の緊迫化やロシアのウクライナ侵攻長期化等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く環境は、2024年4月～2024年12月におけるパソコン出荷台数が前年比119.7%で推移しました(2025年1月、JEITA調べ)。また、2024年4月～2024年12月の訪日外客数は28,311,402人(前期比39.6%増)となり、出国日本人数は9,970,018人(前期比25.4%増)となりました(2025年1月、日本政府観光局調べをもとに当社作成)。

このような環境下において、当社は「製品を通じて喜びと感動を世界中の人々に広げる」をミッションに、既存の製品における収益拡大と、お客様のニーズに合った製品の企画・開発による新しいビジネスの創造に取り組んでおります。

製品別の状況につきましては、当社グループの主力製品であるAI通訳機「POCKETALK(ポケトーク)」の海外市場における販売が拡大いたしました。米国における非ネイティブに向けた多言語対応需要の増加により、教育機関や医療機関、公共機関、その他企業への導入が拡大しております。特に、教育機関における需要が高く、米国基準のプライバシー保護法に準拠したことなどが奏功し、さらなる導入の加速に繋がっております。この結果、当社孫会社であるPOCKETALK Inc.(米国)では、上半期(2024年1月～6月)において営業利益黒字化を達成し、さらに2024年9月度の営業利益率は過去最高の17.8%を達成いたしました。また、2024年10月には、5年ぶりの次世代機となる「ポケトーク S2」を発売いたしました。販売開始に合わせて実施した新タレントを起用したテレビCMをはじめとするマス広告のほか、これまでご利用いただいた方々から得た「ユーザーの声」を反映し、新しく搭載した機能「双方向翻訳」(言語の切り替え作業がなくスムーズな翻訳ができる機能)が高く評価されたことにより、日本市場においても売上拡大に繋がりました。この結果、2024年10月には、当社子会社であるポケトーク株式会社(日本)の連結業績において、創業以来初の単月黒字化を達成いたしました。引き続き、大規模なマーケティングや店頭での露出拡大などにより、一層の収益拡大を期待しております。

「ポケトーク」ブランドのAI同時通訳「ポケトーク ライブ通訳」につきましては、法人のお客様を中心に導入が拡大しております。「双方向でのコミュニケーションを実現したい」というニーズを受け、「双方向翻訳」の新機能をリリースするなど、多言語でもシームレスに意思疎通が出来る世界を実現するべく、機能開発にも継続して取り組んでおります。また、国内の教育現場における「言葉の壁」に着目し、大人数のイベントなどで同時通訳を届ける「ポケトーク カンファレンス」と「ポケトーク ライブ通訳」を組み合わせ、教育機関向けの新製品「ポケトーク for スクール」を発売し、2024年6月には、神戸市教育委員会での導入を発表いたしました。本製品は、利益率の高いソフトウェア製品かつサブスクリプション型製品であるため、安定した収益基盤の形成に資するものであり、今後の成長の柱として注力してまいります。

「ポケトーク」の売上高につきましては、海外向け販売が急速に伸長し、前期比で20.7%の増加となりました。

その他のIoT製品につきましては、文字起こしAI「AutoMemo(オートメモ)」が、2020年12月の発売以来、アカウント登録数を大幅に伸ばし、累計アカウント数(有料、無料の利用者合計)は2024年12月末時点で170,000を突破いたしました。また、β版として公開していた、文字起こしデータのAIによる自動要約機能に加え、2024年5月には、会議で発言されたToDo事項を抽出する機能の搭載を発表いたしました。さらに2024年10月には、「オートメモ」を使って自動でテキスト化した議事録を、サイボウズ株式会社が提供するwebデータベース型の業務アプリ構築クラウドサービス「Kintone(キントーン)」に出力できる機能を追加しました。これらの迅速かつ簡単に議事録が作成できる機能の拡充により、サブスクリプション型テキスト化サービスの会員数も順調に増加しております。

360度webカメラシリーズ「Meeting OWL(ミーティングオウル)」、「KAIGIO CAM360(カイギオ カム360)」の販売につきましては、リモート会議等で活用される法人のお客様からの需要を獲得し、堅調に推移しております。

ハードウェア製品の最新製品につきましては、2024年6月に、スマホ用ゲームコントローラー「Backbone One(バックボーン ワン)」の国内唯一の代理店となり、全国の家電量販店やオンラインショップなどで販売を開始いたしました。販売開始当初より、店頭での販売が好調であり、2024年12月の商戦期には、家電量販店での店頭販売イベントを実施し、多くのお客様に製品を体験いただきました。今後もさらなる販売拡大に取り組んでまいります。

また、2024年9月には、当社がこれまで培ってきた音声認識技術と最新のGPT技術を組み合わせた対話型ゴルフAIデバイス「BirdieTalk(バーディ・トーク)」を発売いたしました。2024年6月から開始した応援購入サービスサイト「Makuake(マクアケ)」での先行販売では、目標金額を大きく上回る1400万円以上の応援購入を獲

得しており、今後の新たな収益の柱となるべく、機能開発や認知の拡大を進めております。加えて、2024年12月には、北海道札幌市のふるさと納税の返礼品として採用され、納税ポータルサイト3社からお申し込みいただけるようになりました。

新たに取り扱いを開始した製品としましては、2024年12月に、スマートトラッキング業界のパイオニアである、PB Inc. (米国) のスマートタグ「Pebblebee (ペブルビー)」(クリップ型、カード型) の、オンラインショップでの販売を開始しました。同製品を日本で取り扱うのは当社が初めてとなります。販売開始当初より好調に推移しており、2025年1月にはタグ型の取り扱いも開始するなど、さらなる販売拡大に取り組んでおります。

ソフトウェアでは、当社の主力製品である年賀状ソフト3ブランド「筆まめ」「筆王」「宛名職人」で、売上高は前期比で減少したものの、郵便料金の値上げなどによる、年賀状の市場規模も縮小傾向が続いている中、当社の年賀状ソフトの売上高の減少は、同市場規模の縮小幅に比して緩やかに推移しております。また、セキュリティソフトにつきましては、法人向け販売が好調に推移し、前期比で売上高が増加いたしました。一方で、主力製品以外のソフトウェアの低調等が影響し、ソフトウェア全体の売上高は前期比で減少いたしました。

ソフトウェアの新製品につきまして、2024年11月にAIオフライン翻訳ソフト「AI本格翻訳」の販売を開始しました。本製品は、当社の研究開発(R&D) チームであるソースネクストAIラボが、多数の翻訳エンジンの中から最適なエンジンを選定し、量子化と軽量化を施すことで、AIのパフォーマンスを最大限に引き出し、インターネット環境がなくても、高精度な翻訳サービスが利用できるようにしたものです。オフラインで使用できる文書翻訳サービスは、情報漏洩防止などをはじめとするセキュリティの観点で、法人や個人のお客様から非常に需要が高い製品です。

ソースネクストAIラボでは、高性能で使いやすいAI を追求し、文字起こしAI「AutoMemo (オートメモ)」や対話型ゴルフAIデバイス「BirdieTalk (バーディ・トーク)」など、生成AIの最新技術を誰でも使える形にして、お客様にお届けしております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は86億50百万円(前期比5.4%増)となり、売上総利益は45億52百万円(前期比1.8%増)となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、今後の「ポケットーク」事業拡大のための人件費や業務委託費等の増加がありました。結果、販売費及び一般管理費は66億95百万円(前期比5.5%増)となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の営業損失は21億43百万円(前期営業損失18億70百万円)となりました。

円安の進行に伴う為替差益を82百万円計上した一方で、株式交付費を計上したこと等により、当第3四半期連結累計期間の経常損失は21億48百万円(前期経常損失19億46百万円)となりました。また、法人税等調整額2億3百万円を計上し、非支配株主に帰属する四半期純損失3億54百万円を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純損失は19億19百万円(前期親会社株主に帰属する四半期純損失16億60百万円)となりました。

当社グループはIoT製品、ソフトウェアの企画・開発・販売及びその他のサービス事業の単一セグメントであります。各販売チャネルの営業概況は以下の通りです。

#### ア) オンラインショップ

当チャネルでは、当社直販サイト及びAmazon等の国内ウェブサイトにおけるオンラインショップにおいて、「ポケットーク」や「オートメモ」をはじめとするIoT製品、年賀状ソフトやセキュリティソフトなどのソフトウェア製品等を販売しております。

当第3四半期連結累計期間は、取り扱い製品数の拡充などにより、ハードウェア製品の売上高が前期よりも増加しました。また、ソフトウェア製品においても、セキュリティソフトやPDF編集ソフトなどの販売が好調に推移したことにより、売上高が前期比で増加しました。

この結果、当チャネルの売上高は40億66百万円(前期比4.5%増)となりました。

#### イ) 法人営業

当チャネルでは、法人向けに、「ポケットーク」を始めとするIoT製品ならびにweb会議関連のハードウェアの販売・レンタル提供や、セキュリティ製品・PDF編集ソフト等のパソコンソフトの販売をしております。

「スマート留守電」を中心とするスマートフォンアプリケーションのサブスクリプション型サービス提供にも注力しております。

当第3四半期連結累計期間は、当社主力製品であるセキュリティソフトが引き続き好調に推移しているほか、法人企業におけるペーパーレス化の推進によりPDF編集ソフトの需要が伸長しています。一方で、携帯キャリアによるアプリ使い放題サービスが低調なことなどにより、売上高は前期比で減少しました。

この結果、当チャネルの売上高は16億46百万円(前期比24.9%減)となりました。

## ウ) 家電量販店

当チャンネルでは、主に全国の家電量販店において、個人ユーザー向けのIoT製品及びパソコンソフト等を販売しております。

当第3四半期連結累計期間は、360度webカメラ「Meeting OWL（ミーティングオウル）」やスマホ用ゲームコントローラー「Backbone One（バックボーンワン）」などのハードウェア製品の販売が好調に推移しました。また2024年10月に発売した次世代機「ポケットーク S2」では、店頭での露出拡大のほか、東京・大阪を中心に店頭販促イベントを開催したことにより、売上高は前期比で増加しております。一方で、ソフトウェアの販売は、引き続き低調に推移しておりますが、新年度に向けたビジネスソフトの需要期での露出拡大などにより、販売拡大を図ってまいります。

この結果、当チャンネルの売上高は12億74百万円（前期比0.5%減）となりました。

## エ) その他

海外では米国や欧州の法人直接販売取引を中心に「ポケットーク」を販売しております。

当第3四半期連結累計期間において、海外での「ポケットーク」販売は、米国での教育機関や医療機関、公共機関、その他企業向けの販売が急速に拡大したことにより、売上高は前期比で増加いたしました。加えて、サブスクリプション型のソフトウェア製品である分析・管理ツール「ポケットーク アナリティクス（米国名：Ventana）」の販売も進んでおり、今後の継続的な収益も見込んでおります。

この結果、「その他」の売上高は16億62百万円（前期比96.8%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末と比較し26億27百万円増加し、194億38百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加29億48百万円、商品及び製品の増加10億9百万円、投資有価証券の減少10億54百万円によるものです。

負債は、前連結会計年度末と比較し99百万円減少し、83億22百万円となりました。主な要因は、返済に伴う短期借入金2億25百万円の減少、長期借入金（1年以内返済予定を含む）2億2百万円の減少、および買掛金2億32百万円の増加によるものです。

経営の安定性を示す自己資本比率は、当第3四半期連結会計期間末において47.1%（前連結会計年度末48.0%）と堅調に推移しており、財務の安全性が保持されております。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の連結業績予想につきましては、現時点で精度の高い業績予想算定が困難なことから、引き続き非開示とさせていただきます。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,282,046	6,230,217
売掛金	1,980,324	1,490,776
商品及び製品	2,494,996	3,504,880
原材料及び貯蔵品	76,622	109,418
前渡金	681,883	535,692
未収還付法人税等	13,528	-
その他	233,219	579,636
貸倒引当金	-	△1,408
流動資産合計	8,762,622	12,449,214
固定資産		
有形固定資産		
有形固定資産	458,942	253,854
減価償却累計額	△318,516	△151,055
有形固定資産合計	140,426	102,799
無形固定資産		
ソフトウェア	2,333,141	2,643,554
契約関連無形資産	1,001,086	942,959
その他	208,010	62,242
無形固定資産合計	3,542,238	3,648,756
投資その他の資産		
投資有価証券	4,275,658	3,221,208
繰延税金資産	2,251	964
その他	88,302	15,998
投資その他の資産合計	4,366,212	3,238,172
固定資産合計	8,048,876	6,989,728
資産合計	16,811,498	19,438,942

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	312,072	544,595
短期借入金	3,825,000	3,600,000
1年内返済予定の長期借入金	520,080	594,312
未払金	768,911	794,250
未払法人税等	39,466	62,489
前受収益	529,274	511,865
賞与引当金	42,263	168,987
その他	292,021	307,832
流動負債合計	6,329,090	6,584,333
固定負債		
長期借入金	1,609,740	1,333,076
長期前受収益	272,140	300,230
繰延税金負債	164,114	83,192
その他	46,849	21,608
固定負債合計	2,092,845	1,738,108
負債合計	8,421,935	8,322,442
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,703,401	3,767,804
資本剰余金	7,545,969	11,237,281
利益剰余金	△4,059,938	△5,979,324
自己株式	△163,122	△163,142
株主資本合計	7,026,310	8,862,618
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	829,149	68,739
為替換算調整勘定	218,343	226,413
その他の包括利益累計額合計	1,047,492	295,152
新株予約権	315,759	403,500
非支配株主持分	-	1,555,228
純資産合計	8,389,563	11,116,500
負債純資産合計	16,811,498	19,438,942

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	8,208,685	8,650,079
売上原価	3,735,126	4,097,872
売上総利益	4,473,558	4,552,207
販売費及び一般管理費	6,343,773	6,695,771
営業損失(△)	△1,870,214	△2,143,563
営業外収益		
受取利息	1,117	8,740
受取配当金	2,271	500
為替差益	127,649	82,601
その他	10,199	7,570
営業外収益合計	141,237	99,412
営業外費用		
支払利息	51,578	59,224
持分法による投資損失	150,749	16,791
株式交付費	455	25,198
その他	15,102	3,065
営業外費用合計	217,885	104,279
経常損失(△)	△1,946,863	△2,148,430
特別利益		
投資有価証券売却益	21,384	135,700
新株予約権戻入益	25,217	7,168
特別利益合計	46,601	142,869
特別損失		
固定資産除却損	-	22,014
解約違約金	-	38,095
特別損失合計	-	60,110
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,900,261	△2,065,671
法人税、住民税及び事業税	5,271	5,521
法人税等調整額	48,184	203,106
法人税等合計	53,455	208,627
四半期純損失(△)	△1,953,717	△2,274,298
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△293,582	△354,913
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,660,134	△1,919,385

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純損失(△)	△1,953,717	△2,274,298
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,507	△760,410
為替換算調整勘定	123,704	△4,880
その他の包括利益合計	132,212	△765,290
四半期包括利益	△1,821,505	△3,039,589
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,530,263	△2,671,726
非支配株主に係る四半期包括利益	△291,241	△367,863

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次の通りであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	814,119千円	930,387千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当社グループは、IoT製品、ソフトウェアの企画・開発・販売及びその他のサービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。